

### ◎向日市民憲章◎

- 1 住みよいまちを力を合わせつくりましょう
- 1 きれいな緑と水と空を守りましょう
- 1 働くよるこびと心のふれあいを大切にしましょう
- 1 すくれた教育と文化を育てましょう
- 1 明るいくらしと福祉のまちをきざしましょう

# 待ち遠しい音楽祭

## 市民合唱団

### 寺戸町合唱組曲「琴の橋」で京フィルと共演



脚色 ひらのりょうこ  
作曲 山口 良介  
指揮 青山 政雄  
合唱 向日市民合唱団  
語り 宮本 穂子  
演奏 京都フィルハーモニー  
室内合奏団

あらすじ(寺戸町三ノ坪の伝説)

応仁元年(1467)、京の都は戦乱のつぼと化した。世にいう応仁の乱である。家屋敷を焼き払われた公家や民衆は、われもわれもと都落ちし、都からさほど遠くない乙訓の村々にもそういう人たちが数多く見られた。ある夜のこと、長い布で身を隠した姫を取り囲むかのように急ぎ足で行く数人連れがあった。ちょうど桂から寺戸へ入るところで道が川に行きあたった。幅が2メートルあり、橋もない。姫もお供の小者も途方に暮れ、身の不運とあきらめかかったそのとき、川べりにそびえる棕(むく)の大樹から、低くおごそかな声が聞こえた。

「おまえの供がもつ琴を橋のかわりにしてかけなさい」

なんと、声の主は日ごろから信仰している大日如来のものだった。姫はすぐに愛用の琴を川にかけさせ、ぶじ逃げのびた。そして父と再会、安らかな生涯を送ったという。

その後、この場所に石橋がかけられ「琴の橋」とよばれ長年親しまれていたが、市道の舗装に伴いコンクリート橋に変わり、今では知る人もない幻の橋となっている。

※「琴の橋」は、第4向日小学校前市道を南に50メートルほど下がった農業用水路上にかかる橋であったとされる。

(京都新聞社刊「乙訓の伝説」より)



「京フィルと共演できるのは光栄です。当日が楽しみです」「みんなで一生懸命に歌っているところを見てほしいです。」

11月3日祝市民会館ホールで開催する第17回市民音楽祭に向け、市民合唱団のみなさんが熱のこもった練習をしています。

公募により集まったこの市民合唱団は、大人20人、小学生25人で構成されており、音楽祭では京都フィルハーモニー室内合奏団と、寺戸町の伝説をもとに作られたオリジナル曲「琴の橋」で共演します。

指導にあたっている指揮者の青山政雄さんは、「皆さん本当に熱心に練習しています。物語をいかに表現できるか、期待してください」と話しています。

## 第17回 市民音楽祭

11月3日祝午後1時30分開演  
向日市民会館ホール

**出演**  
京都フィルハーモニー室内合奏団  
マードレコーラス・すみれコーラス・クールメール  
向日市少年少女合唱団「風の子」・かえるコーラス  
向陽小うたの仲間・向日市民合唱団

**入場料** 大人500円 小人300円(中学生以下)  
**入場券発売所** 向日市民会館・各地区公民館  
各地区コミセン・山口たばこ店・かどや

■お問い合わせ 向日市民会館 ☎932-3166

### 京フィルからのメッセージ

市民音楽祭も今年で17回を迎え、京フィルとの共演も5回目になります。今回は今までと一味違った創作合唱曲をお届けします。

向日市の古くから伝わる数多くの昔話の中から、京都の詩人、ひらのりょうこさんが脚色し、山口良介さんが作曲された合唱組曲「琴の橋」を発表します。

応仁の乱によりはなればなれになった親子が天の声により再会するお話です。寺戸に伝わる物語で、ご存じの方もいらっしゃると思います。

公募で集まったみなさんが向日市のお話を合唱するというのは大変意義深いことだと思います。ぜひ多くの方が聞きに来て下さることを願っています。



京都フィルハーモニー室内合奏団  
1972年結成、自主運営によるプロの合奏団としてスタート。クラシックを中心に他ジャンルの名曲を取り入れ、さらにオリジナル作品を加えたユニークで、アイデアに満ちた親しみやすいコンサートを企画。演奏者自らが聴衆の身になって作り出す、手作りコンサート。多彩なプログラムと熱気ある演奏で幅広い客層を持つ。年間ステージは約260回。